

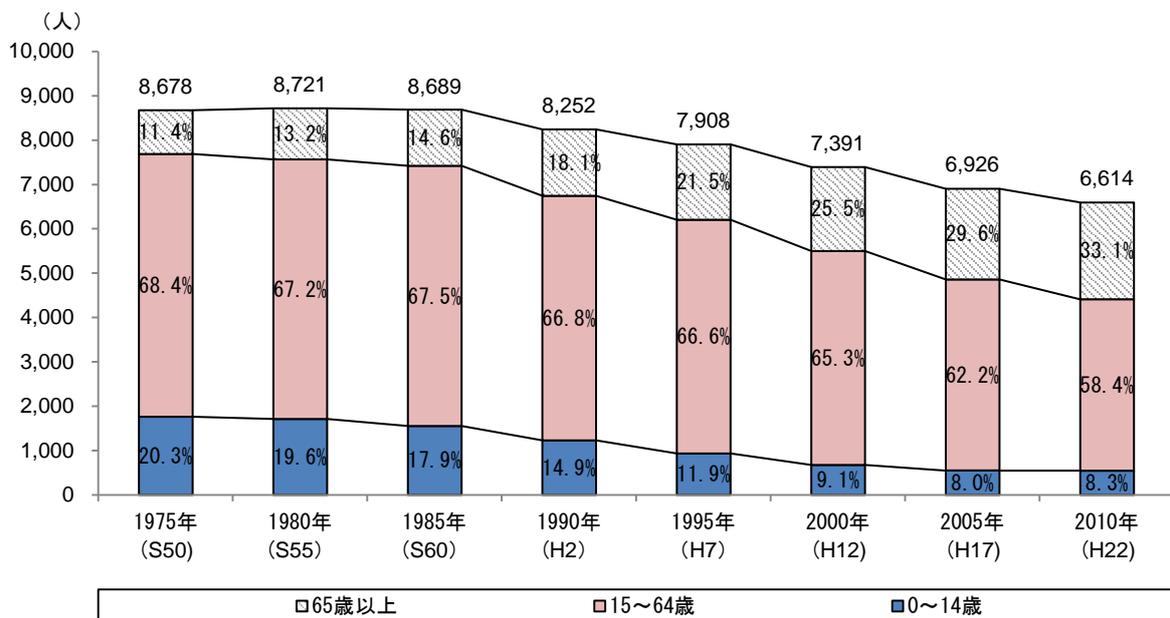
第14章 吉見地区の個別分析

吉見地区の人口の状況について、個別の分析を行います。

1 吉見地区の人口推移

吉見地区の人口は、図表 14-1 のとおり 1975（昭和 50）年以降、概ね減少傾向にあり、高齢化率は年々上昇しています。一方、生産年齢人口（15～64 歳）及び年少人口（0～14 歳）の全人口に占める割合は、概ね減少傾向にあります。

図表 14-1 吉見地区人口の変化(1975 → 2010年)



資料) 総務省「国勢調査」を基に作成

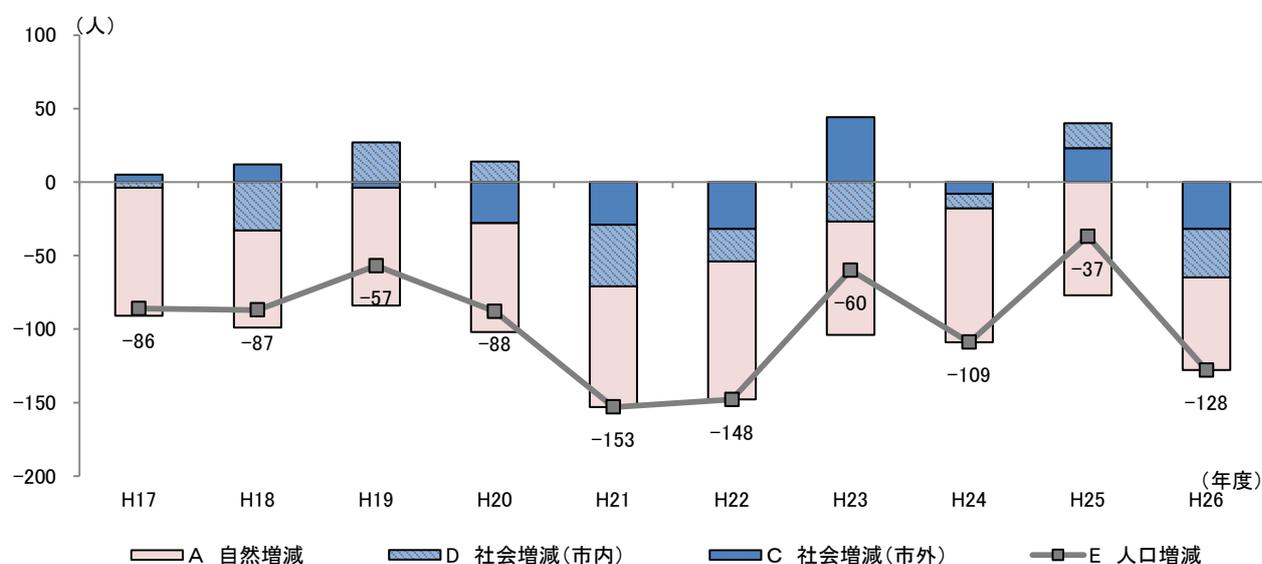
吉見地区における 2005（平成 17）年度から 2014（平成 26）年度まで、10 年間の自然増減及び社会増減の推移をみると、図表 14-2 のとおりとなります。

自然増減（A）については、一貫して出生数を死亡数が上回り、減少が続いています。（第 1 章（2 ページ）でみたように、吉見地区の当該 10 年間を累計した自然減少率は市内で 3 番目に高い数値となっています。）社会増減（B）については、増加の年と減少の年が約半数ずつとなっています。内訳をみると、市外移動による社会増減（C）は、増加の年と減少の年が約半数ずつで、市内移動による社会増減（D）は、概ね減少傾向となっています。

過去 10 年間の吉見地区の人口増減（E）は、社会増の年であっても自然減少数がその数を上回っているため、一貫した減少が続いています。

図表 14-2 吉見地区の人口動態(2005(平成 17)年度～2014(平成 26)年度)

		H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
A 自然増減	(a-b)	-87	-66	-80	-74	-82	-94	-77	-91	-77	-63
a 出生数		25	46	31	35	21	30	26	26	26	33
b 死亡数		112	112	111	109	103	124	103	117	103	96
B 社会増減	(C+D)	1	-21	23	-14	-71	-54	17	-18	40	-65
C 社会増減(市外)	(c-d)	5	12	-4	-28	-29	-32	44	-8	23	-32
c 転入(市外)		233	284	288	240	219	196	295	232	236	188
d 転出(市外)		228	272	292	268	248	228	251	240	213	220
D 社会増減(市内)	(e-f)	-4	-33	27	14	-42	-22	-27	-10	17	-33
e 転居入(市内)		150	135	171	158	121	121	111	111	143	129
f 転居出(市内)		154	168	144	144	163	143	138	121	126	162
E 人口増減	A + B	-86	-87	-57	-88	-153	-148	-60	-109	-37	-128



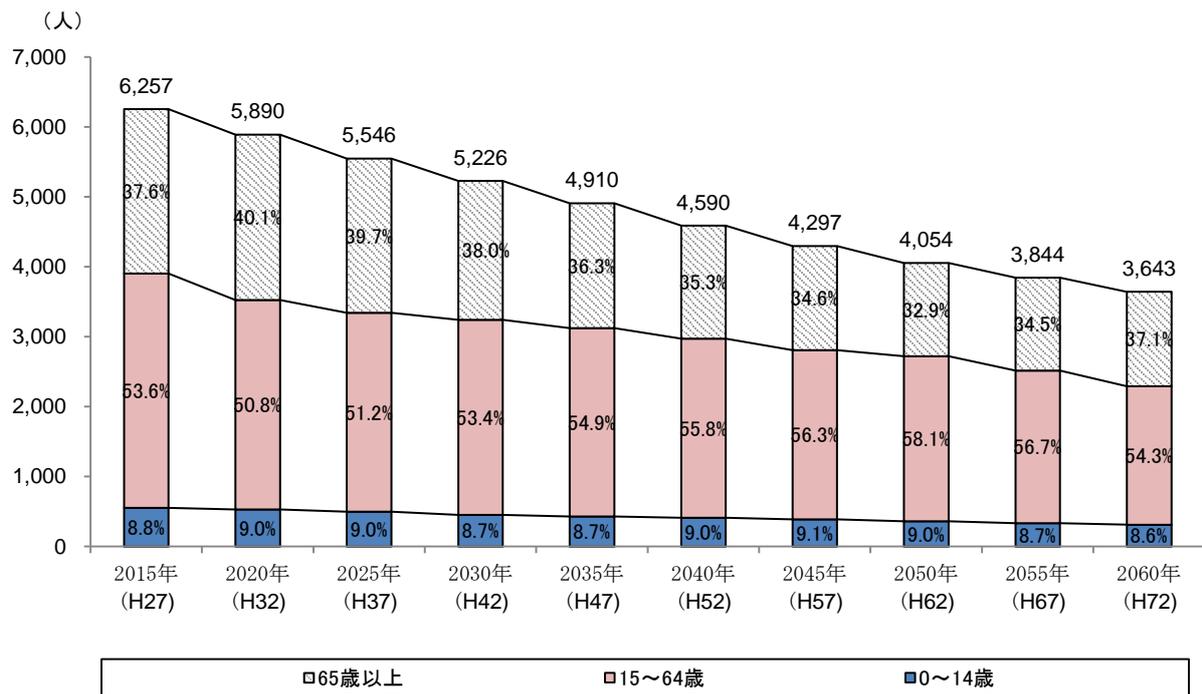
資料) 下関市ホームページ「統計しものせき(地区別の数値)」を基に作成

2 吉見地区の将来人口推計

国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠して吉見地区の将来人口を推計すると、図表 14-3 のとおりとなります。総人口については、減少が続く一方、高齢化率は、2020(平成 32)年まで概ね増加を続ける見込みです。

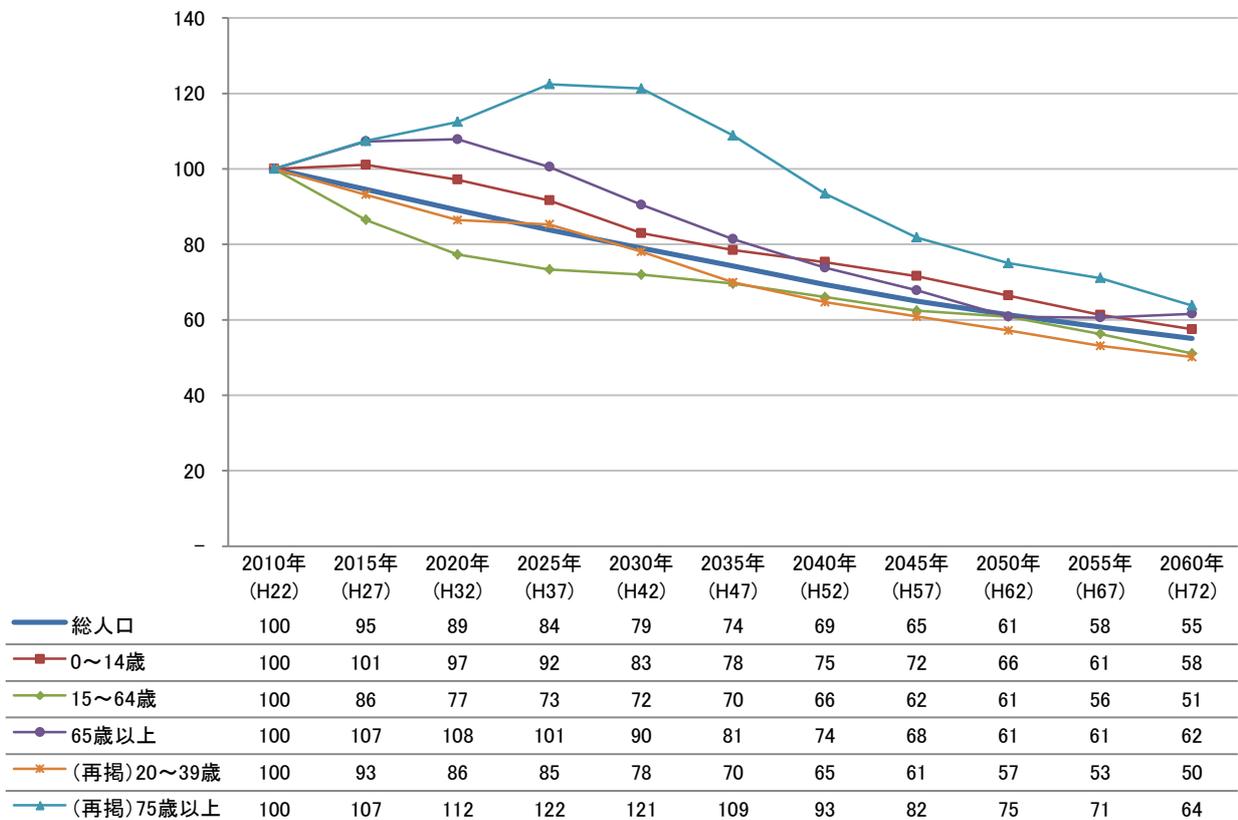
また、総人口及び各年齢区分の人口について、2010(平成 22)年の人口を 100 として年齢区分別人口の推移をみると、図表 14-4 のとおりとなります。総人口、年少人口(0~14 歳)、生産年齢人口(15~64 歳)は一貫して減少を続け、20~39 歳については 2060(平成 72)年に半減する見込みとなります。一方、65 歳以上の人口は 2020(平成 32)年、75 歳以上の人口は 2025(平成 37)年まで上昇し、以降、減少に転じる見込みとなっています。

図表 14-3 吉見地区将来人口推計 (2015-2060年)



資料) 総務省「国勢調査」、まち・ひと・しごと創生本部事務局「将来推計用ワークシート」、国立社会保障・人口問題研究所資料を基に作成

図表 14-4 吉見地区年齢区分別人口の推移 (2010年=100)

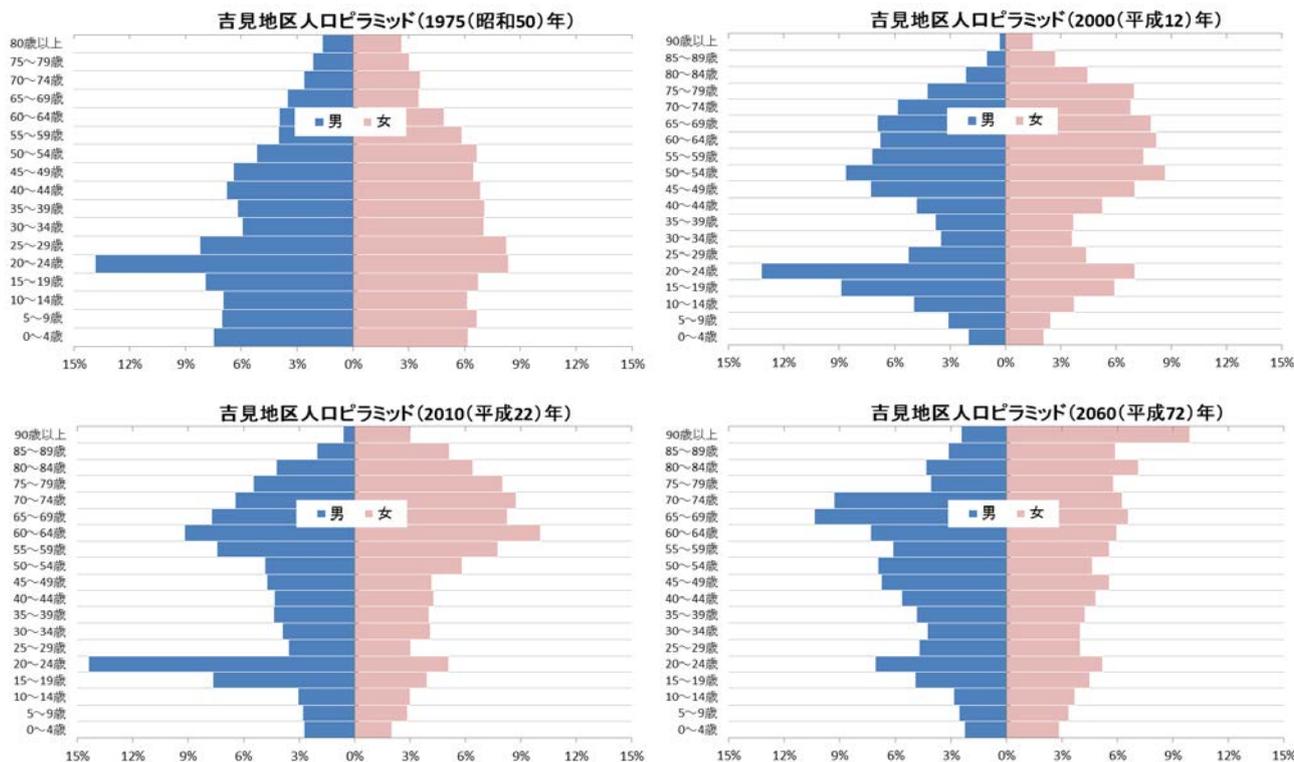


資料) 総務省「国勢調査」、まち・ひと・しごと創生本部事務局「将来推計用ワークシート」、国立社会保障・人口問題研究所資料を基に作成

3 吉見地区の人口ピラミッド分析

1975（昭和 50）年にピラミッド型に近い形状であった人口の年齢別構成比は、若年層の減少・高齢者の増加により、つぼ型に近い形状に変化していく見込みです。

図表 14-5 吉見地区人口ピラミッド(年齢別構成比)の推移 (1975年 → 2000年 → 2010年 → 2060年)



注) 1975年、2000年、2010年は実績値（年齢不詳を除く）。2060年は下関市推計値。

資料) 総務省「国勢調査」、まち・ひと・しごと創生本部事務局「将来推計用ワークシート」、国立社会保障・人口問題研究所資料を基に作成

4 吉見地区の特性分析

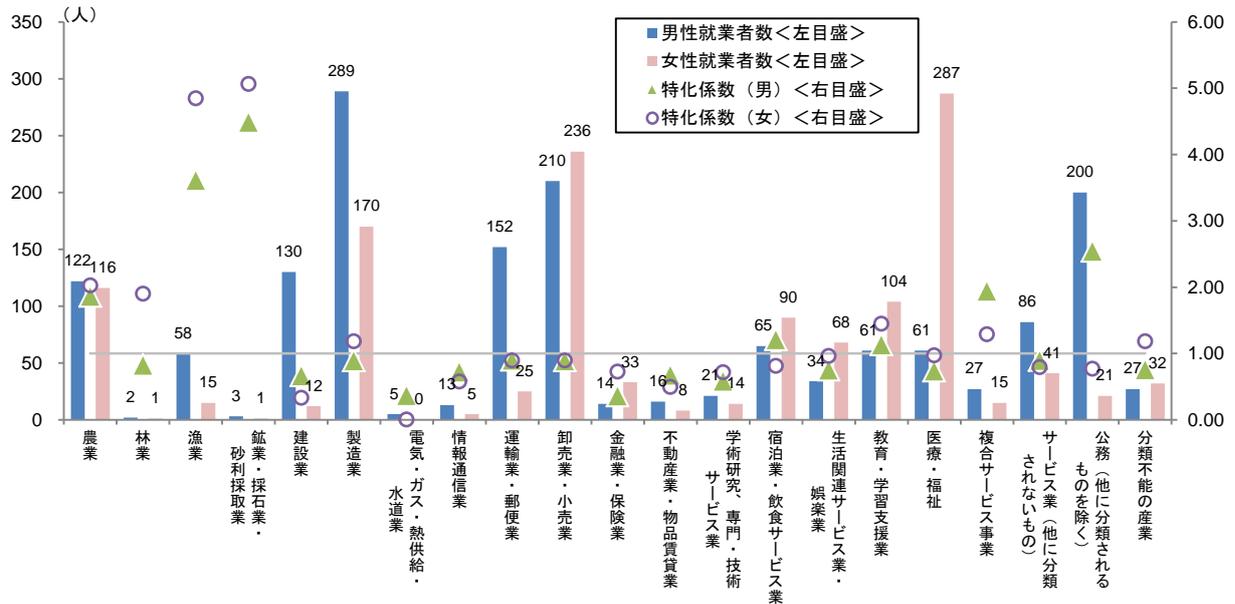
国勢調査（平成 22 年）の小地域集計から、吉見地区の特性を分析します。

(1) 常住地による就業人口 (図表 14-6)

- 男性は「製造業」の従事者が約 300 人と最も多く、次いで「卸売業、小売業」、海上自衛隊下関基地隊の立地を反映し「公務」の従事者が多くなっている。女性は「医療・福祉」が最多で、次いで「卸売業、小売業」の従事者が多くなっている。
- 本市全体の構成比と比較した「特化係数¹」は、男女共に「農業」、「漁業」の第 1 次産業の値が高い。また、男性は「公務」や「宿泊業・飲食サービス業」、女性は「教育・学習支援業」の値が高くなっている。

¹ 当該地区の構成比を本市全体の構成比で除して得た値。ここでは 1 より大きい産業ほど、市全体と比べて就業者数の割合が大きいことになる。(地区の特徴をみるため、特化係数が高く、ある程度就業者数が多い産業について記述。)

図表 14-6 吉見地区の男女別産業(大分類)別人口 (15歳以上就業者数:男性総数 1,596人、女性総数 1,294人)

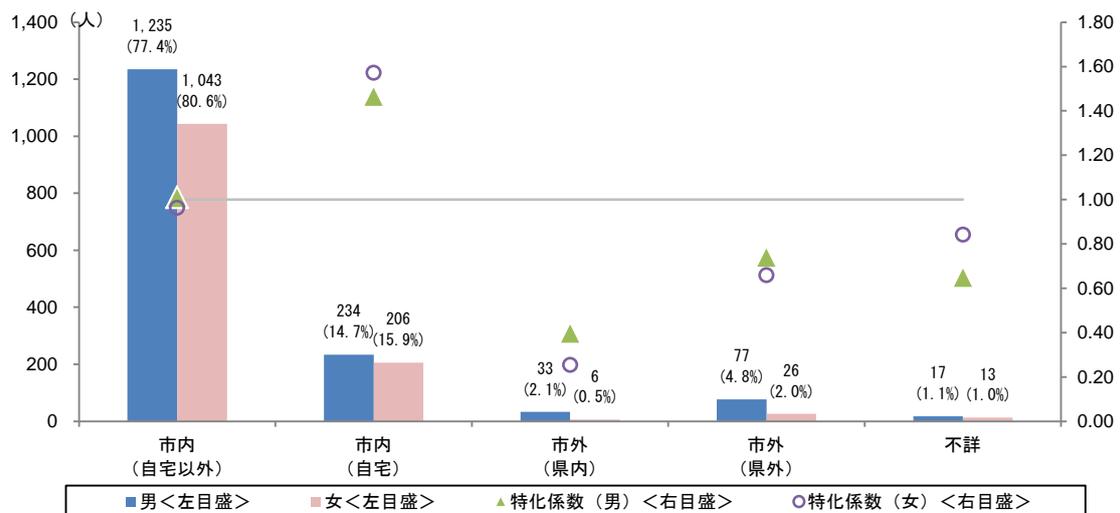


注) 特化係数は下関市全体との比較
資料) 総務省「国勢調査(平成22年)」を基に作成

(2) 吉見地区住民の就業地 (図表 14-7)

- 男女とも「市内(自宅以外)」で就業している人の数が多い。
- 市全体の構成比と比較した特化係数は、男女とも「市内(自宅)」の値が高く、「市外(県内)」、「市外(県外)」の値がともに低くなっている。

図表 14-7 吉見地区住民の就業地 (15歳以上就業者数:男性総数 1,596人、女性総数 1,294人)

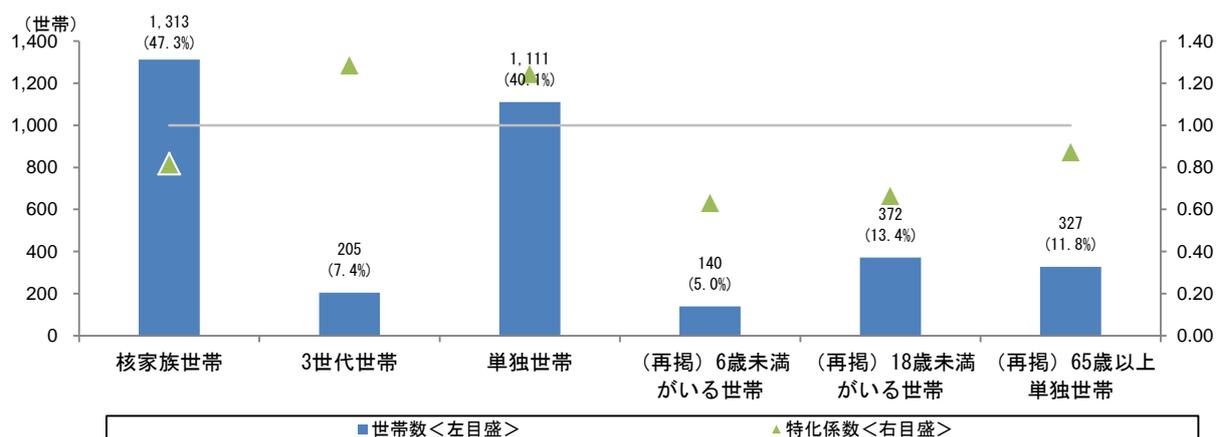


注) () 内の数値は、15歳以上就業者数男女各総数に占める割合。
注) 特化係数は下関市全体との比較
資料) 総務省「国勢調査(平成22年)」を基に作成

(3) 吉見地区内の一般世帯の状況 (図表 14-8)

- ・「核家族世帯」、「単独世帯」の数が多。
- ・市全体の構成比と比較した特化係数は、「3 世代世帯」、「単独世帯」の値が高く、それ以外の世帯の値は、全市以下の水準となっている。

図表 14-8 吉見地区の一般世帯の状況 (一般世帯総数:2,773 世帯)



注) () 内の数値は一般世帯数に占める割合。(再掲の値があるため、合計は 100%にならない。)

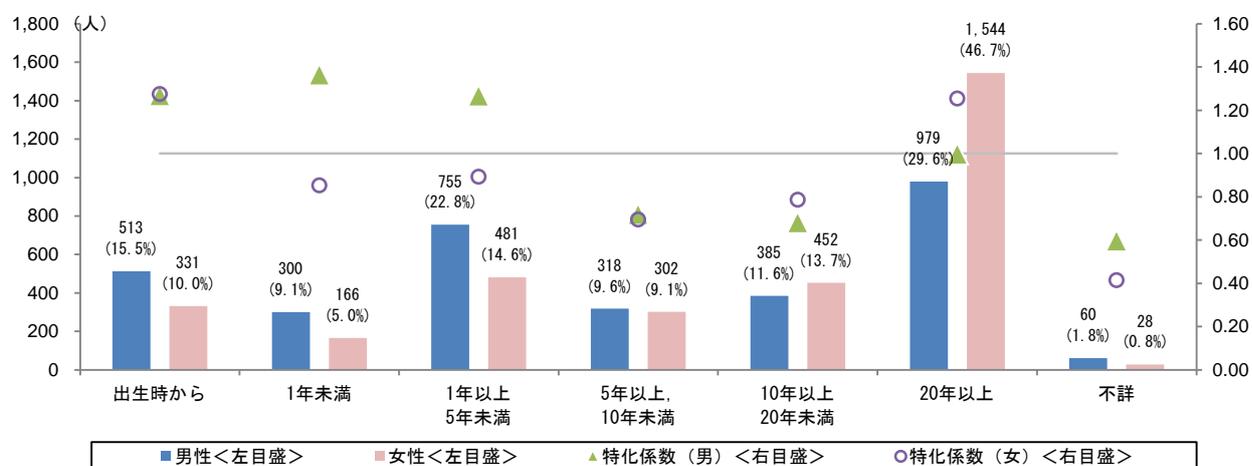
注) 特化係数は下関市全体との比較

資料) 総務省「国勢調査 (平成 22 年)」を基に作成

(4) 吉見地区住民の居住期間 (図表 14-9)

- ・男女とも、居住期間「20 年以上」の人が最も多い。
- ・市全体の構成比と比較した特化係数は、男女とも「出生時から」の値が高く、男性は「1 年未満」、「1 年以上 5 年未満」、女性は「20 年以上」の値が高くなっている。

図表 14-9 吉見地区住民の居住期間 (男性総数 3,310 人、女性総数 3,304 人)



注) () 内の数値は、男女各総数に占める割合。

注) 特化係数は下関市全体との比較

資料) 総務省「国勢調査 (平成 22 年)」を基に作成